

第11回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」の第11回目になります。こどものひろばで活動し、現在も子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。小学校教諭、スクールソーシャルワーカー、カウンセラー、介護福祉士、ユースワーカーという様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。バックナンバーはホームページ最下部にある専用ページ（コッペパン コラム集「こどもと共に育つ」）からご覧いただけます。



この記事を書いている瞬間につだが何をしているかという、待っております。第一子が誕生するのを待っております。病院に行っても「生まれるまで、まだ時間かかるので、旦那さんは家で休んでおいてください。体力勝負なので！」と帰されます。休みたい気持ちはあれど、心境としてはソワソワして休めません。今日も早朝に目覚め、掃除をしたり、衣替えしてみたり、買い物に出たりして過ごしますが、時間が過ぎません。先輩パパ方はこの時間をどのように過ごしておられるのでしょうか？笑



そして書き始めて2日後、ついに誕生しました！！妻の妊娠が分かった約10ヶ月前から。エコー写真で見る小さな小さなかたまりが人になり、動き出し。そして…「オギャー！」という元気な産声と共に、スタッフからの「おめでとう！」という声。「命の誕生」という尊さは感動の一言でした。

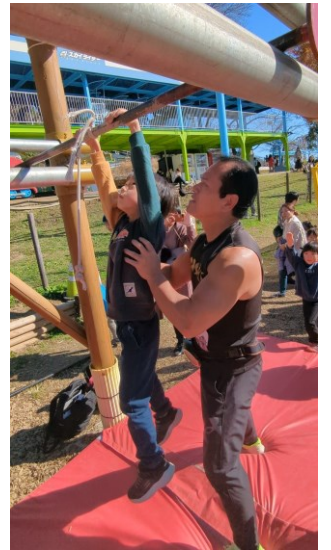
今後は仕事のことより、パパ業の話題が増えるかもです。笑

また、こどものひろばにも遊びに行きたいと思います！！（つだ）



こんにちは！さとみんです。

4歳の頃からTBSのSASUKEという番組にハマって、日々公園でトレーニングに励んでいる6歳の息子。先日隣の遊園地にあるSASUKEをモチーフにしたアスレチックに、有名選手がやってくるというイベントがあり、行ってきました。前回行った際には、最終受付時間の回にも参加し、最後まで満喫しようとしていたのですが、アスレチック内にはトイレがなく、一時的に退場はできないにも関わらず、入場から10分程でトイレ行きたいと言われ、涙ながらに終了し、トイレに行った経験から、今回は念入りに確認して、いざ入場～



憧れの選手を間近で見、更にアスレチックのサポートをしてもらい、とても嬉しそうでした！私自身が子どもの頃から見たい番組だったので、実は母もテンション上がっていました。そして子がやってる写真が番組公式Xの投稿に選ばれていました。すごい確率なので、宝くじを買ったら当たるかしら？？

SASUKEを見るようになってから、1度でできなくても、諦めずに何度も挑戦するようになったし、よりいろいろなことに挑戦するようになった気がします。まだまだ出場を目指せる年齢ではないのですが、いつかの未来に向けて努力できる好きなことへのエネルギーってすごいなあ～このままSASUKEでもいいし、他のどんなことでもいいので好きだと思えることや物に出会って、楽しんで過ごしてほしいと思います。

ちなみに今年のSASUKEの放送は12/25のクリスマスだそうです。我が子は出ていませんが、良ければ見てください！！



みなさまお久しぶりです。

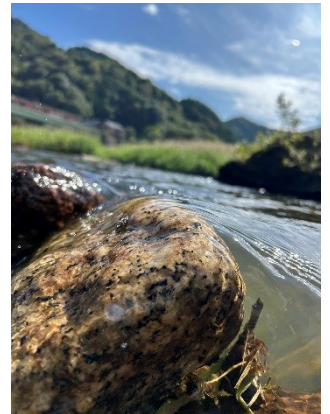
こどものひろばとSSW（スクールソーシャルワーカー）の二足のわらじをしているたくとです。

さてさて、1年もあっという間に終わろうとしており、個人的には29年生きてきて一番“あっ”と言う間の1年でした。（まだ12月が終わっておりませんが）そんなふうを感じるのは、私ごとですが、SSWになることへのチャレンジがあったからだと思います。まだまだ右往左往しておりますが、これまでの経験があったこと

で救われていますし、いろいろ元を辿っていくと、「不登校の時間がなかったら今の自分はなかったな」と思います。「あの経験があつてよかった」とまではっきりと言えるかは分かりませんが、もう一度したい経験でもないですが、ふと振り返ると、あの経験があつたからこそ、考えさせられ、いろんな人に関わり、こどものひろばにもつながり、いまのSSWにもつながっていています。

僕自身がある人に言われたことですが、「せっかくそんな経験があるんだから、活かされた方がいいよね」といったニュアンスのことを言われた記憶があります。その一言に感銘を受けたとか、衝撃だったとかいった記憶はありませんが、僕自身もそれまでの経験に意味づけをしようとしていましたし、そうすることで自分を肯定しようとしていたのかもしれない。

SSWとして学校現場やこどものひろばの職員として出逢う子どもたちの中には、それぞれ様々な生きづらさや困りごとを抱えている子どももいます。最近、そんな彼らと関わる中で、それぞれのつらかったり、暗いと思われがちな経験を受け入れて、ポジティブに変換していくことだけが、彼らが前に進んでいくためのステップではないのかもしれないと考えさせられます。まさにこの文章を作成している目の前にいた女の子は、「認めたくないから受け入れない」と言っていました。拒否があつてから受容に至るのか、受容だけが正解ではないのか…どんな自己決定を応援でき、伴走ができるかなと日々考えさせられております。今日はこの辺で！



こんにちは。やもりです。早いもので今年もあとわずか！みなさんはどんな1年をお過ごしでしたか？ 私は結婚をして、式を挙げて、ライフスタイルがちょっと変わってと、目まぐるしい1年でした。最も大きな変化は、野菜を食べる様になりました(笑)。ひろばで活動してた頃は、野菜無しの揚げ物生活により、週の半分は口内炎ができる荒れた生活。当時関わってた子から「やっくん、野菜食べなあかんで」とよく怒られていたのが懐かしいです。



そして、仕事では「若者支援にとっての多様な社会参加のカタチ」をテーマにお話ししました。「社会参加ってなぜ必要なの？」を参加者同士で話し合い、人とつながること＝孤立しないためだよ、という意見などが多く出ました。それってすごく大事ななと想うとともに、自分が考える人とつながることって、単にその場だけの、名刺交換だけの付き合いでなくて、自身の心の内を話したり、相互に認め合える関係をつくること。そんな、ともにある関係性を若者たちと日々つくっていききたいなと改めて感じました。



ぴーちゃんです。職場で、言葉での会話が難しい就学前のお子さんと継続的にお会いしています。私の問いかけに指さしや表情などの表現で返答してくれることもあります。なかなか“やりとり”が上手いかないと感じていました。ここ数カ月はおままごとなど、モノを介してのやりとりが増えていた中、この前、ふと〈どんな遊びが好きなの？〉と私が質問すると、ジェスチャーで、“歌”と答えました。好きな手遊びを聞くとやってくれたので、一緒に楽しみました。この日、非言語ですが、“会話でやりとり”をしました。別の職場でも、一方的に話し続けて会話でのやりとりが難しいと感じていた子が、最近は“会話”が弾むようになってきました。どちらの子も状況は違いますが、背景には“相手に伝えたい！”という思いがあつたのだろうと思います。そして、その子の力が成長・変化したのもあると思いますが、その子と私の関係性も成長・変化してきたのかもしれない。

